

# 令和5年度 幼小接続研究部



## ペア研究 報告



宇治市立菟道小学校 磯谷 恵利子  
宇治市立神明幼稚園 青木 梨絵子

菟道小学校 磯谷です。神明幼稚園 青木です。  
ただいまよりペア研究の報告をさせていただきます。

# 報告の流れ

I. これまでの取り組み

II. 公開授業・保育を通して

III. まとめ



報告の流れです。

I. これまでの取り組み

II. 公開授業、保育を通して

III. まとめ の順に報告させていただきます。

## ペア研究テーマ



『幼児期の遊びを通して育まれた力が  
小学校生活へどのようにつながっていくのかを探る。』

～幼児期の遊びと生活科の授業を通して～

I. これまでの取り組みについてです。

ペア研究のテーマは『幼児期の遊びを通して育まれた力が小学校生活へどのようにつながっていくのかを探る。～幼児期の遊びと生活科の授業を通して～』と設定しました。

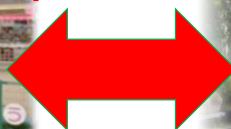
小学校学習指導要領 生活編には『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を手掛かりとして、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を受け継いでいく必要がある と記されていることを幼小の教師間で確認し、幼児期の遊びと生活科の授業に焦点を当てて、研究を進めることにしました。

## I. これまでの取り組み



神明幼稚園

約2km



菟道小学校

菟道小学校と神明幼稚園の距離は約2kmと離れており、大人でも歩いて3、40分ほど掛かるため、子どもが行き来するのではなく、教師が行き来してそれぞれの教育のよさや違いを知ることを研究の柱としました。

## Ⅱ．公開授業・保育を通して

9月 菟道小学校 1年生 生活科

10月 神明幼稚園 5歳児

### Ⅱ．公開授業・保育を通して

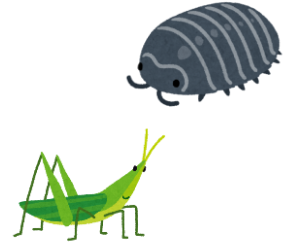
9月と10月に互いの教育を参観し、事後研究会を行いました。

## 9月 菟道小学校 公開授業

### ◎ 生活科

#### 単元 『いきものだいすき』

#### 生き物を観察しよう



- 自分で捕まえた生き物を紹介する
- 生き物の特徴を話し合う

9月 菟道小学校一年生 生活科

単元 『いきものだいすき』 生き物を観察しよう という授業を参観させていただきました。

授業では、自分で捕まえた生き物を紹介したり、生き物の特徴を話し合ったり、

◎ 単元 『いきものだいすき』  
生き物を観察しよう



- 生き物の写真をタブレットで撮り、観察する
- 生き物の絵や気付いたことをかく

生き物の写真をタブレットで撮って観察したり、気付いたことを絵や文字でかいたりする子どもの姿が見られました。

## 小学校1年生の生活科の授業を 参観して感じたこと

【教師の援助や関わり】  
子どもの気づきを  
受け止め、  
学級内で共有



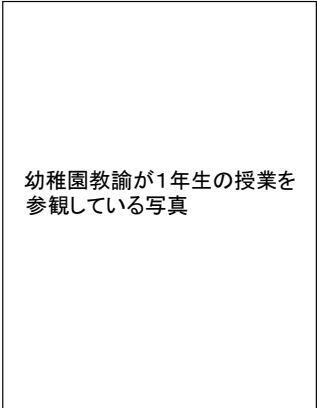
教師の援助や関わりについてです。  
授業の中で、「オンブバッタの上に乗っているのはオスかメスか」という話題で盛り上がっていました。教師は正解を教えるのではなく、子どもの考えや気づきに「なるほど」と言葉を返したり、子どもの言葉を受けて「オンブバッタの上には、オスが乗っているんだって」など、皆で共有できるよう言葉掛けをされたりしていました。このように自分の言葉を教師に受け止めてもらえる安心感が土台となり、伸び伸びと思ったことを話しながら学びにつながっているのだなと思いました。



## 【幼稚園の教育と共通していること】

子どもの気付きを  
十分に認める

主体的に考えられる  
言葉掛け



幼稚園教諭が1年生の授業を  
参観している写真

また、「どうしてオンブバッタの上にはオスが乗っているんだろう」など、子どもの気付きを受け止めつつ自ら考えられるような言葉掛けもされていました。子どもの気付きを十分に認めたり主体的に考えたりできるような言葉掛けは幼稚園の教育と共通していると感じました。

## 小学校1年生の生活科の授業を 参観して感じたこと

### 【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重

数量や図形、文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに、子どもの姿を見取ると思考力の芽生え・自然との関わり・生命尊重・数量や図形、文字などへの関心・感覚・言葉による伝え合い・豊かな感性と表現の育ちを幼小の教師間で共有することができました。

## 【園の遊びを生活科の学習へ】

### クモの足って何本ある？



小学校での参観を終え、自分の保育を振り返ると、幼小の教育でつながっていると思われる事例に気付きました。写真は、園庭で体長10センチほどのクモを見つけたときの様子です。子どもたちは「こんな大きなクモ見たことない」「でっかすぎる」などクモに驚きながら盛り上がっていました。すると、一人の子どもが「クモの足って何本ある？」と言いました。「えっと確か8本だよ」「いや、そんなないやろ」「ちょっと数えてみよう」とクモの足を数え始めました。ところが、クモが動いてうまく数えられません。「あかん、クモが動くし全然数えられへん」「先生、数えて」と話す子どもたち。私は、子どもたちが大きなクモを見つけて驚く気持ちに共感しつつ、今この瞬間の思いを大切にしたいと考え、写真に撮ってみることを提案しました。子どもたちもそうしようと話す姿が見られました。絵本や図鑑でクモの足について調べることも可能でしたが、このときの子どもたちは、早くしないとクモが逃げってしまうという思いが強かったこと、実態として絵本や図鑑で気になったことを調べる楽しさを味わう姿まで至っていなかったこともあり、その瞬間を捉えられるタブレットを活用しました。

## 【園の遊びを生活科の学習へ】

よく見てみよう 考えてみよう



子どもたちと写真を見ながら一緒に数えてみると右側に4本、左側に2本の合計6本足だということを確認できました。「やっぱり8本もないやん」「ああ、そうか8本もなかったのか」と、話す子どもたち。私が「本当に6本だったのかな。もう一回よく見てみよう。右側と左側なんかちょっと違うみたい」と言うと、「本当だ、足の数が違う」「もともとあと2本あったのかも」「足、けがしちゃったクモやったのかも」など、子どもたちなりに考えていました。そして「本当は足が8本だったけど、けがしちゃって6本になったんだ」「けがしちゃってかわいそう。大丈夫かな」と話す姿が見られました。このように身近な生き物と出会い、興味や関心をもったり生き物を思いやったりする姿は、小学校の生活科の学習へつながっていくのではないかと思います。保育の振り返りとして、クモの足は本当に8本だったのか、他のクモを探して観たり園外のクモはどうかなど探究をしようとしたりする気持ちがもてるような言葉掛けや働き掛けができればよかったと反省しました。本当にこれでよいのか、もっと知りたいという気持ちが小学校の学習につながっていくのではないかと思います。そのようなことも念頭に置きながら保育をすることが重要であると学びました。

## 幼稚園教諭との事後研究会で学んだこと

- 話し言葉の充実→書き言葉の充実
- 直接体験の中で学ぶ
- 焦点を絞った学習



幼稚園の先生との事後研究会後、学んだことがあります。

1つ目は、話し言葉の充実が、書き言葉の充実につながるということです。自分が言いたいことを友達や先生に聞いてもらった満足感・充実感を得ることで、話し言葉が充実し、書き言葉も習得していくと学びました。

2つ目は、直接体験の中で学ぶ大切さです。体験した経験があることで、抽象的なことも豊かに想像ができる子どもに育つと知りました。

3つ目は、焦点を絞った学習です。今回も、友達との話し合い、ワークシートに絵や文章でまとめるといった活動をしましたが、1時間の学習でたくさんすることはできません。子どもに力をつけさせたいからといって、あれもこれも教師の欲で子どもにさせるのではなく、焦点を絞ったわかりやすい授業づくりが低学年では特に大切であると改めて気付かされました。

## 学習の変化

### 直接体験・心を動かす学習

→豊かな想像力



事後研究会を経て、その後の学習では、子どもたちが直接体験できる活動や学習の時間をしっかり確保できるよう心がけました。この写真は、休み時間に子どもが蔓が伸びているのを見つけて「登ってみたい!」と試みているところ、(危ないことは止めますが、)落ち葉がたくさん集まったところで、「落ち葉の絨毯!」「落ち葉の布団」といって遊ぶ様子です。その隣の写真は、生活科の秋見つけで大吉山に登った後に、図工科の「ならべてならべて」で、拾ったどんぐりや落ち葉を並べていろいろな形を作った様子です。



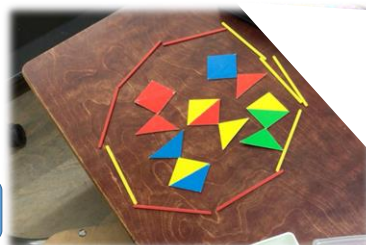
## 子どもの変容

遊びこめる子ども→



学びこめる子ども

体験を通した学習を重視



算数科では、「かたちづくり」の勉強で、数え棒やいろ板を好きな形に並べる活動も十分に行いました。「いろいろなかたち」でも、箱や筒の形を生かして子どもが好きな生き物や乗り物などを自由に作る時間があります。生活科だけでなく、1年生の学習では、様々な教科で体験を通して学ぶことのできる活動があります。それでも、学習が多岐に渡り、なかなか時間が取れないことも事実です。今回の生活科の生き物の学習では、学習の単元が終わった後も、生き物の世話の仕方を友達と相談しながら決めたり、うまくいかないことも試行錯誤したりする様子が見られたので、今後も生活科においては特に体験を通した学習を大切にしたいと思いました。

## 10月 神明幼稚園 公開保育

### ◎ 自ら選ぶ活動



- お寿司鬼ごっこ

10月に、神明幼稚園公開保育  
5歳児の遊びや活動を参観しました。  
お寿司を背負って走って遊ぶ、お寿司鬼ごっこや砂場  
遊びなどの自ら選ぶ活動



◎ 学級での活動  
サツマイモの収穫



さつまいもの収穫や

## ◎ 学級での活動

触れ合い遊び  
(音楽に合わせて)



肩たたきなどのふれあい遊びといった学級での活動を参観しました。

## 5歳児の遊びや活動を 参観して感じたこと

### 【教師の援助や関わり】

教師も仲間になって  
遊ぶ



教師の援助や関わりについてです。  
教師と一緒に鬼ごっこをする様子が見られました。子どもに対して明るく笑顔で温かい雰囲気です。接することで、子どもが自己を発揮して遊び、自由に発言できる環境を作っていました。教師が子どもの世界に入り、夢中になって遊ぶことが大切だと学びました。

## 5歳児の遊びや活動を 参観して感じたこと

### 【小学校教育と共通していること】

子ども自身で考えられるような  
適切なタイミングでの言葉掛け

遊びの中ではもちろん、トラブルも起こります。鬼ごっこをしているときもありましたが、先生は、子どもたちの話し合いに介入しすぎず、子どもたち一人一人の想いや行動を優しく受け止めていました。子どもたち自身で考えられるような言葉がけを適切なタイミングで行うことで、子どもは自分の気持ちに折り合いをつけたり、相手の気持ちを思いやったりできるようになります。それは、小学校教育と共通していることと言えます。

## 5歳児の遊びや活動を参観して感じたこと

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

健康な心と体 協同性

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

5歳児の遊びや活動で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の体を思いっきり動かして遊ぶ「健康な心と体」、友達と一緒にさつまいもを掘る「協同性」「自然との関わり・生命尊重」さつまいもの大きさや重さを比べる「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」友達との「言葉による伝え合い」が見られました。

## 【小学校教育と共通していること】



やってみたい

もっと知りたい気持ちを  
大切にする

## 遊びの環境づくり



小学校教育と共通していることは、環境構成を考えることです。

さつまいもの収穫の後、量りをおいておくことで、「お芋を乗せてみたい」「のせるとどうなるのかな」と、重さに関心を持つ子どもがたくさんいました。また、どんぐりを種類や形に分けて置いておく場所を作ったり、どんぐりの本を置くなど、もっとやってみたい、知りたい気持ちにさせるような環境を先生が意図して作っていました。



## 【小学校教育と違うところ】

時間の制限がない  
からこそ、遊びこめる



主体的に遊ぶ子どもが育つ環境

小学校教育と違うところは、時間の制限がないことです。さつまいもの収穫の後に、さつまいものつるで何か遊べないかと考え、つるで縄跳びをする様子が見られました。時間の制限がないからこそ、遊びこめる。主体的に遊ぶ子どもは、主体的に学ぶ子どもに育つと教えてもらいました。幼児期の豊かな遊びの経験が、小学校の様々な学びにつながっていると、参観を通してより感じられました。

## 小学校教諭との事後研究会後 環境の見直し



小学校の先生との事後研究会で、あえてものを不足させることで更に子どもの考える力につながるのではないかというご意見をいただき、環境構成を見直しました。

こちらは砂場の用具の一部です。友達と貸し借りする経験ができるようにと願い、スコップや皿の数を減らしました。このように小学校の先生の視点から気付いたことを教えていただき、保育環境を見直すことができました。



## 【園と小学校で共通していること】

- 教師のあたたかい関わり
- 教師が意図や願いをもって関わる
- 具体的な体験や活動を通して学ぶ

互いの教育を知る中で、共通していることを確認しました。子どもが安心して生活するためには、教師が子どもにあたたかく関わる大切であること、教師が意図や願いをもって関わるのが子どもの育ちにつながると話し合いました。幼児期の教育と一年生生活科の中で共通していることは、具体的な体験や活動を通して行われていることであると確認できました。

## 公開授業・保育のまとめ

- 互いの教育のよさや違いを受け入れる
- 幼児期の経験が学習の土台となる

公開授業・保育のまとめです。それぞれの教育を参観し合ったことで互いの教育のよさや違いを知り、自分の授業や保育を見直し、改善することができました。

ゆったりとした時間が流れる幼児期の教育の中で豊かな経験を積み重ねていくことで、小学校の生活や学習の土台となっていくのではないかと確認しました。

## 公開授業・保育のまとめ

- 家庭も巻き込んで育ちを支える
- 教師同士が教育を語り合う

また、幼児期や小学校教育を通して育まれている力について保護者にも分かりやすく伝え、家庭も巻き込みながら子どもの育ちを支えていく必要があること、教師同士でそれぞれの教育を語り合うことが、子どもの育ちを支えるために必要であると確認しました。



### Ⅲ. まとめ



#### 成果

- 子どもの育ちを支える仲間としてつながる
- 共通点を見出し、大切にしていることを共有

Ⅲ.まとめ  
成果です。

教師同士が互いの教育を知ったり関心をもったりしながら歩み寄り、子どもの育ちを支える仲間として、つながれたことが大きな成果だったのではないかと思います。

また、互いの教育を知る中で共通点を見出して、大切にしていることが見えてきたことです。



### Ⅲ. まとめ



#### 課題

- 先ずは、自校・自園で広めていく
- 継続して研究を進める方法を探る

課題です。

幼小接続に関わる取り組みについて共通理解することの難しさを感じます。少しずつ園や小学校で幼小接続に関わる取り組みを広めていくことが必要なのではないかと考えます。

今回の研究を進めるにあたって、できるだけ電話やメールでのやり取りなど、限られた時間の中で効率よく進めれるようにしてきましたが、今後も研究のテーマに焦点をあてて無理なく継続して研究を進める方法を探っていく必要があると考えます。

## さいごに



子どもを真ん中に  
教師同士 仲間としてつながり  
学び続けていきたい

### さいごに

架け橋期の子どもの育ちを支えていくために、これからも子どもを真ん中に幼小の教師が歩み寄って仲間を増やししながら、学び続けていきたいです。



ご清聴ありがとうございました



ご清聴ありがとうございました。